

第 213回通常国会

村田きょうこ 「今回の質疑のポイント」 No.1

2024 年 2 月 7 日（水）資源エネルギー・持続可能社会に関する特別委員会



ご安全に！ 参議院議員の村田きょうこです。

2月7日(水)、第213回通常国会になって初めての質疑を、資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会*で行いました。テーマは「エネルギー安全保障の確立に向けた論点」。この分野で豊富な知識を持っておられる、学識経験者などを参考人として呼びし、

- 1 . 中国のグリーン産業が成長した理由**
- 2 . 日本の技術を生かした脱炭素化の推進**
- 3 . 重要鉱物の製錬に関する環境保全**

の観点から質疑をしました。

※詳細は次頁以降、または YouTube をご覧ください。



【資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会】

資源エネルギーの安定確保と持続可能社会の調和について、3年間をかけて調査するもので、1年目は情勢、2年目は論点整理、3年目にそれらを踏まえた戦略をテーマとしている。

1. 中国のグリーン産業が成長した理由

【課題認識】

・日本はこれから洋上風力発電に力を入れようとしているが、国内のサプライチェーンを発展させていくよりも、コストを安くすることが重視され、安い中国製品を輸入しようとするのではないかと、との危惧を関係者から聞く。

村田：エネルギーの安全保障を考えると、太陽光パネルや風力発電設備を日本国内で作り、再生可能エネルギーを生み出すことが重要だが、太陽光パネルも風力発電設備も中国製が世界の中心となっている。中国でこのようなグリーン産業が成長したのはなぜか。

山本隆三参考人：将来性が見込める市場で、まず国内でものすごい量を導入して国内製造業を育てるといふ、中国政府の非常に上手な政策にやられている。こんな計画経済のようなことは他の国ではなかなかまねできないし、完全にサプライチェーンを作り上げている中国企業に日本の企業が対抗していくのはかなり難しいと思う。

洋上風力は、部品点数が非常に多いので、サプライチェーンはがっちりできており、そこへ日本企業が食い込んでいくのは、例えばいきなり自動車部品を作ってトヨタに買ってくれと言っても買ってくれないのと同じ。そんなことも考える必要がある。

2. 日本の技術を生かした脱炭素の推進

【課題認識】

・ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー危機を受け、途上国では、脱炭素化を進めたいけれど経済的な理由から価格の安い石炭火力発電に回帰する動きがある。

村田：アジアや途上国で脱炭素化を進めるためには、日本が持っている水素やアンモニア混焼による火力発電技術を生かせるのではないかと？

久谷一朗参考人：化石燃料の延命との批判もあるが、今あるエネルギー需要に適切に対応しつつ、将来の脱炭素化にも備えていくことができる一挙両得の技術が、水素混焼やアンモニア混焼である。この分野で頑張っている数少ない国が日本であり、途上国が抱えるニーズに応えることができる日本のテクノロジーを、どんどん発展させていくべきと考える。

3. 重要鉱物の製錬に関する環境保全

【課題認識】

・重要鉱物を産出している国はさまざまである一方で、鉱物の製錬は中国がほとんど行っている。その背景として、環境規制の緩い中国国内で安く製錬を行っているのでは？との見方がある。

村田：重要鉱物の製錬に関し、安全衛生や環境汚染対策などの問題に対して、日本ができることは何か？

久谷一朗参考人：日本でも足尾銅山の鉱毒問題があったが、それが起こり得るのが鉱物の製錬。低コストで製錬できる環境規制の緩い国に対し、適切な環境保全を行い、生活者を守るための最低限のルールを決めることで、こうした産業にかかわる人たちを守り、かつ、世界の製錬産業の土台を整えることができる。こうした公正な土台をつくり、その中で各国の企業が競争していく環境を整えることが健全な姿と考える。

以上